

議会だより

平成29年5月

もろっか

平成
29年 第153号

編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村議会

もくじ

平成29年度一般会計予算	2
総括意見・個別意見	3
一般質問	4~6
歳入歳出予算に対する質疑応答	6~7
所管事務調査報告	8~9
議会活動報告	10

30億8,300万円(当初予算)

平成29年度一般会計予算

平成29年 第1回定例会

(前年度 30億5,800万円 比較 2,500万円増)

議会費	総務費	民生費	衛生費	農林水産費
				
4,600万円	6億7,000万円	3億9,900万円	1億4,900万円	6億2,700万円

商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費
				
3,500万円	3億4,000万円	3,600万円	2億2,600万円	1,100万円

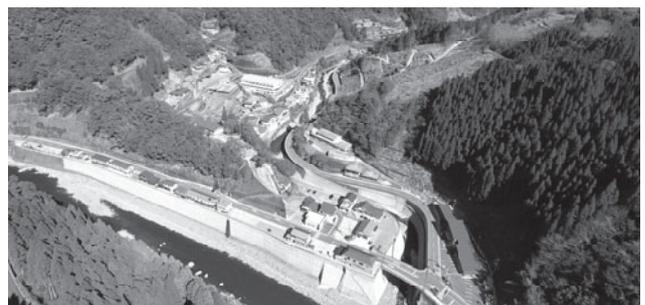
単位：千円

特別会計	
会計名	予算額
国民健康保険	381,152
後期高齢者医療	32,867
介護保険事業特別会計	258,915
簡易水道事業	36,047
公共下水道事業	14,964
診療所事業	334,220
発電事業	2,215
特別会計合計	1,060,380

予備費	公債費
	
1,000万円	3億3,200万円



諸塚商店街



諸塚村役場周辺

総括意見

我が国経済はアベノミクスの取組みの下、緩やかな回復基調が続いているが、その一方で海外の政治経済は混迷を深めており不安定さを増している。

予算編成の背景となる国の基本方針とその概要は、地方財政について地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源は、平成28年度の水準を下回らないよう実質同水準を確保することとされている。このことを踏まえた平成29年度の地方交付税交付金は、前年度当初予算に対して3,705億円減の1兆6,298億円を確保し、臨時財政対策債を前年度比34億円増額し4兆円とすることで、前年度並みの予算を確保している。

以上のことを前提に編成された諸塚村の平成29年度一般会計当初予算は、30億8,300万円で、対前年度比2,500万円の増となり、行政需要の変化や国県の予算編成の動向にも充分留意するとともに、村民ニーズに沿うものとなっている。具体的には、子ども子育て支援、高齢者支援、農林業振興対策、商工業振興対策、村道及び林道開設改良事業等、必要性や緊急性を重視するとともに、村民の視点に立った効率的な予算配分がなされている。

事業面では「子育て、健康、生きがいづくり」として、子ども子育て支援センターの設置、総合検診の年齢幅拡充や老人福祉館改修事業は福祉の充実をはかるとともに、地方創生拠点整備交付金を活用した、しいたけの館21の全面改修、さらには安心安全な地域づくりのための防災行政無線など情報通信網の整備、移住定住推進事業や諸塚村独自のインターンシップ事業も計画されている。

また、川の口地区の小水力発電所の開設に伴い、今回新たに発足された発電事業特別会計においては、適正な管理運営がなされることを希望するものである。

本村を取り巻く情勢は、人口減少や少子高齢化など依然として厳しい状況ではあるが、本予算が的確に執行され、村民生活が安定することを切望し総括とする。

個別意見

- ・ 人材不足に対するインセンティブ施策の推進
- ・ 事業発注時の発注者、設計者、施工者の相互連携の確認
- ・ 農林業の所得向上への取り組み

一般質問

今回五名の議員が質問をしました。

しいたけの館リニューアルに伴う 観光協会の移転について



黒木 重人 議員

問 黒木議員 しいたけの館リニューアルが計画されているが、今回のリニューアルを契機に、再度もろっこはうすにある村産材展示室と観光協会事務所を入れ替えるまたとないチャンスと思うが、村長の考えを伺う。

答 西川村長 現在運営しているどんこ亭との関係上、しいたけの館からの完全撤退はできない。また、現在の観光協会の人員と運営

形態上、事務所を二つ持つ余力はない。

しいたけの館21は、諸塚村の観光交流の中心施設であり、そこに事務所を置いている意味は大きく、これまで通りの「協創の森・諸塚」の中核を担う組織として、観光事業を推進することが肝要と考える。

単身者用住宅の建設について

問 黒木議員 年度末、新年度を迎え、毎年のように住宅入居に関して問題が発生している現状ではないか。

答 西川村長 諸塚村に定住を希望した若い世代の住宅の確保が必要ではないか。

答 西川村長 村営住宅の整備については、利用の現状や将来の見込み等を充分に考慮して整備する考えである。

中央だけでなく地域でも、山村定住住宅等の要望もあり、分散も視野に入れながら進めたい。



西川村長

国道503号の改良促進と飯干トンネルの 早期着工に向けた取り組みについて



岩本 國和 議員

問 岩本議員 国道503号は現在、鶴野工区と八重の平工区の2工区が工事中である。また、飯干トンネルは着工のめども立っていないのが現実である。503号の改良促進の今後の取り組みをどのように考えているのか。

答 西川村長 国道503号の整備については、道路の技術的基準等に基づき、車輛の安全性や走行性、また、工事の施工性や経済

性などを総合的に勘案しながら、改良工事を進めているようである。県としては、まず飯干トンネルに行くまでの区間の整備を段階的に進めたいとの方針である。

今後、村としては、新たな工区設定等を含め、早急な改良促進の要望活動を行っていきながら、飯干トンネル整備についても粘り強く、要望していきたいと考えている。



予算編成方針について



堀 英博 議員

堀議員

問 村長に就任して2年となり、任期の折返しを迎えたことになる。村長のカラーを新年度予算に示す時期だと考えるが、本村の課題をどう認識し、平成29年度予算で重点的に取り組む施策は何か、村長の考えを伺う。

西川村長

答 村政を進めるうえで、村民の「安心安全の確保」「産業振興イコール所得の向上」「福祉・医療・教育の充実」を柱にこれには序列はなく、どれもが重要なもので、バランスの取れた施策展開に配慮する必要があると考えている。村民の皆さんがどうし

たら喜んでくれるか、価値あるものが提供できるか。そして、小さくとも存在感のある村づくりが一丸となって取り組むことが肝要と認識している。

林業施策について

堀議員

問 3年後開催の東京オリンピック関連施設に、本村のFSC認証材が使用される可能性と、今後の取組みについて、どのように考えているのか、村長の考えを伺う。

西川村長

答 木材の積極的な使用が注目されている。東京オリンピック関連施設にも、森林認証材が使用されることになっているので、私も直接、隈研吾事務所を訪ね、諸塚村産FSC認証材の利用をお願いした。オリンピック関連施設も複数あるので、それらの施設も含めて、引き続き宮崎県の協力を仰ぎながら、情報収集と営業活動に鋭意取り組みでいる。

椎茸産業について

堀議員

問 椎茸価格の低迷に生産意欲の減退、椎茸産業の衰退が懸念され、国による椎茸緊急対策事業として原木、種駒に対する支援が行われたが、今年度をもってその支援がなくなる。東京オリンピックに向かって価格の上昇が期待される今、生産意欲を維持していくためにも、村単独の更なる対策が必要と考えるが、今後の対策について、どう考えているのか。

西川村長

答 本村の平成29年度からの椎茸産業への支援は、以前の補助金体制に戻すことを基本に、購入原木、種駒購入への支援を村単独で復活し、選別補助、生産施設整備への補助を継続していきたいと思う。また、新たに村単独事業として、国より単価は下がるが、自家原木への補助金の追加を提案しており、椎茸振興基

金も活用し、村費での補助金を増額して予算計上している。

村の基金について



中田 政雄 議員

中田議員

問 村の保有する基金を今後、これ以上積み増していくのか。目標とする額があれば、それはどの位になるのか。また、将来において計画される事業を考えているのか伺う。

西川村長

答 財政的な運用としては、当初・補正予算において、財源に不足が生じる場合は、目的に沿った基金の繰入れをしている。また、将来的な事業としては、建設後53年が経過している中央公民館の改築事業や村営住宅等の

耐用年数経過、老朽化に伴うもの、道路等インフラ整備を順次対策していかなければならないと考えている。

さらに、日向東白杵広域連合も施設の老朽化や次期最終処分場の整備も検討されており負担金の高騰が予想される。なお、自然災害等不測の事態に備える必要もある。

ふるさと納税について

中田議員

問 本村においての今後のふるさと納税制度の取組みと目標とする金額、その使途について、考えを伺う。

西川村長

答 今後も、専用サイトを通じて普及に努めながら、ふるさと納税を行った方の趣旨に反しないようその使途に充分留意し、村政に反映すべく努力して行く。ふるさと納税の目標額は定めていないが、今後とも地道に取り組みたいと思う。

高齢者社会に向けた取組みについて



田原 尚美 議員

問 田原議員
ここ数年で大幅な高齢者層の増加が見込まれる。

自分の健康は自分で守るといふ村民全体の意識の改革はもちろんであるが、福祉の充実を図り安心安全な社会を築いていくために、村としてどのように取組んでいくのか村長の考えを伺う。

答 西川村長
高齢者が、2025年頃までに後期高齢者に達することにより、全国的に介護・医療費をはじめとする社会保障費が急増することを本村も懸念している。

平成29年度の予算では、「子育て対策」「健康増進

対策」「高齢者対策」を重点施策として改善している。
「高齢者対策」では、長距離運転の負担軽減を目的に、公共交通機関を利用し県内の移動が楽にできるよう、定期券購入に対し、これまでの助成額の拡充を行い、年間上限2万円を助成する等、各事業の検証と改善に継続的に努める。



歳入歳出予算に対する 質疑応答 (総括質疑)

(質疑)

大規模林道の景観について

数少ない観光資源である展望箇所では、近年木が太り過ぎて景色が見えなくなってきた。

答弁

木の成長により展望が阻害されている現状がある。現地を確認して対策がとれればと思う。



(質疑)

諸塚診療所について

先生方が充実している今、村外で受診している患者を諸塚に留めるよう呼びかける必要があるのではないか。

答弁

一次診療は諸塚診療所で受診しその後に専門医へ紹介いただく流れを、機会ある度会合等をお願いしている。



そこが聞きたい

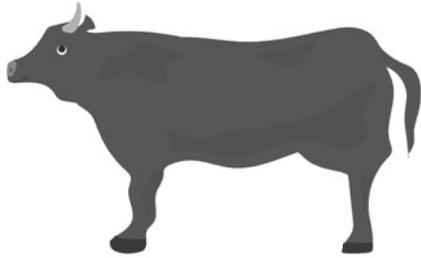
(質疑)

全国和牛能力共進会について

今年度宮城県で行われる全国共進会への支援をお願いしたい。

答弁

諸塚村牛が県代表で全国共進会へ参加となれば、必要な予算措置はすべきだと思う。



そこが聞きたい

(質疑)

しいたけの館の利用について

交流人口を増やすための村外者を受け入れる施設も大切だが、村民が利用しやすい施設にすることが最優先ではないか。

答弁

みんなで使用できる施設を作ることには慎重にならざるを得ないが、諸塚に住む人の恩恵を一番に考えて、改善できるところは協議していきたい。

(質疑)

村民体育大会について

2年ごとの開催とかいう考えはないか。

答弁 教育長

村民が一堂に会するスポーツ行事は村民体育大会しかない。村の団結を維持するということを考える場合、できるだけ今のままでやっていきたい。

答弁 村長

子どもたちが楽しみにしている部分もあり、どうい方法が一番いいか今後の課題として議論していきたい。



(質疑)

人手不足について

若い人の労働力の確保が、これからの諸塚村の産業振興の大きな力ギになってくると思うが、人手不足に対するこれからの対策は。

答弁

しっかり生活ができる所得の確保が一番の前提である。対価に見合った給与の改善を図る必要がある。



(質疑)

再造林について

再造林と人手不足はリンクしていてこれからの大きな問題である。県も再造林、担い手対策に本腰を構えはじめている。全国森林環境税を再造林対策に持っていけないか、これについての情報が入っていれば聞かせていただきたい。

答弁

全国森林環境税について平成30年を目標に方向性は示されている。全国の1000以上の創設連盟未加入自治体への加入を呼びかけ、また山に関する林業再生に向けた新聞報道等は、県民はもとより国民の皆さんが山に関心を深めていただくいい機会ではないかと思う。

(質疑)

村観光協会の運営について

発足当時役場にあった事務局を、今一度企画課に戻し、一から出直した方がいいのでは。

答弁

改善できる分はしっかり話し合いをし、検討させていただきたい。

所管事務調査報告
総務常任委員会

村内の通学路の調査については、主に徒歩での通学で使用される道路において、その安全性が確保されているか否かを中心に実施した。昭和の時代と比較をすると、使用される通学路は山の中の近道よりも、車の通る広い道路を集団で登下校している様で、車輛との事故が心配される状況である。特に諸塚中学校の場合、生徒達による朝の挨拶運動が行われている、

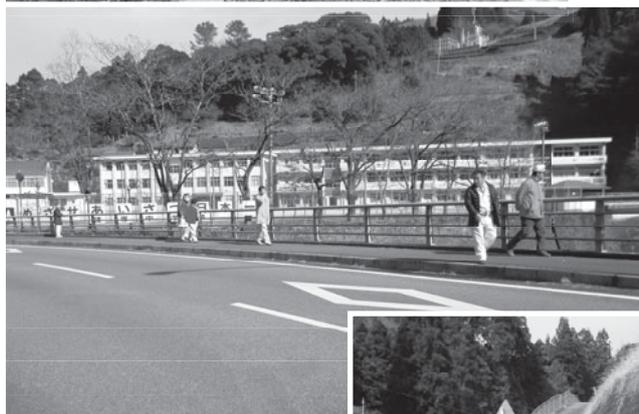
国道50号の柳原バス停から橋を渡って正門までの間の150m位は、ゆるやかなカーブのため車のスピードも出やすく、早い時期にガードレールの設置要望したい場所

あった。また同様に、地域の人達が作った物か、国道503号の只石バス停の待合所も改修の急がれる所である。

また、中央公民館から村体育館までの歩道は、木製の防護柵が設置をされていたが、路面の数カ所に鉄筋の突起物があった。七ツ山小学校区においては、倒木によりフェンスの破損を確認したところであったが、教育委員会において双方とも即座の対応処置を行った旨、報告を受けたところである。

基づき通学路の安全確保に関する取り組み方針が示され、日頃から改善と努力がなされている事は大変重要であり、高く評価すべきと考える。

今後も、村内全域において園児、児童、生徒のすべての事故のない安全で楽しい通学路の確保に向けて、関係機関の連携体制をさらに密にしながら、その活動に期待を申し上げ報告とする。



通学路調査

所管事務調査報告
産業建設常任委員会

水見椎茸団地においては、害菌、特にラクテアオオボタンタケの被害が深刻である。この害菌は、夏場の高温多湿で無風状態の条件で発生し活力を増し、きわめて汚染スピードが早いのが特長だ。

また、いったん発生すると団地全体の消毒や原木の一斉撤去しか対策がなく生産者にとって厄介な害菌である。大規模生産団地である水見椎茸団地においては、夏場の高温多湿な条件に加え長年同じ場所ではホタ木づくりをするため害菌に汚染されているとの話もあり、早急な対策が必要であると感じた。

次に、椎茸生産において数々の受賞に輝く村内屈指の技術を持つている、日与川和志氏のホタ場を視察した。椎茸生産ホタ場（ハウス）に入ると見事なホタ木が並んでおり採取の時に使う鏡や計測器が備えられ、品評会に向けての意欲を感じたしだいである。

石原バル椎茸団地においては、駒打ち作業の最中だったが、2台の駒打ち機や運搬車を駆使し、団地入所者が協力し合いながらの作業は見習うものがあつた。

本村の椎茸生産は、平成27年頃から急激な価格回復がみられたものの、ここ数年植菌数は増えて

いるが、生産量の増量には至っていない。今回の調査で感じたことは、村民の貴重な収入源でもある椎茸産業を守るためにも、害菌対策は急務であると感じた。



水見椎茸団地視察

議会活動報告

月	日	行 事 名	場 所
1	3	第 7 1 回諸塚村成人式	中央公民館
	6	諸塚村消防出初式	村民グラウンド
	15	日向地区諸塚村人会	日 向 市
	30	日向市・東臼杵郡町村議会議員研修会	日 向 市
	31	宮崎県町村議会時局講演会	高 千 穂 町
2	7	産業建設常任委員会：所管事務調査	村 内
	8	総務常任委員会：所管事務調査	村 内
	16	県町村議会議長会定期総会	宮 崎 市
3	1	東臼杵郡議会議長会定期総会	日 向 市
	2	議会運営委員会・議会全員協議会	委 員 会 室
	8	平成29年第 1 回定例議会（～17日）	役 場
	9	本会議	議 場
		予算審査特別委員会	委 員 会 室
	10	予算審査特別委員会	委 員 会 室
	13	予算審査特別委員会	委 員 会 室
	15	予算審査特別委員会（まとめ）	委 員 会 室
17	本会議（最終日）	議 場	



予算審査特別委員会



予算審査特別委員会

随 想

田原 尚美

「春に三日の晴れなし」との諺どおり3月は雨続きで肌寒い日が続きました。川はいつになく水量が増し、七ツ山流域最初となる小原神社春祭り参拝の際は、眼下に流れる小原井川のゴォーゴォーという音に自然の力強さを感じたところでした。

さて予想だにしなかった熊本、大分大地震から一年。今、尚約47,000人の方が仮設住宅や避難生活を強いられている、被災された皆様の一日も早い復旧復興を心から祈念致します。

今、世界のいたるところで自然の脅威による災害が発生しています。国内においても北海道の大水害でジャガイモが壊滅的な被害を受け、店頭から製品が消えたという報道がされておりますし、3月には栃木県的那須町で起きた雪崩で多くの尊い若者の生命がうばわれています。

私達も諸塚のあの平成17年の大災害を忘れることなく、日頃の備えを心掛けたいものです。



編 集 後 記

山笑う春。今年は村内各保育所、小中学校の入学式に美しい桜の開花が見られました。表紙の写真は、耳川広域森林組合諸塚支所事務所跡地のしだれ桜で観光協会にご提供いただきました。百彩の森づくりに認定された諸塚の山々の景色の移り変わりを、村民の皆様と共に楽しみたいものです。

今年度も読みやすい広報紙づくりに努めてまいります。
ご愛読よろしく申し上げます。

（編集委員）田原尚美 堀 英博 岩本國和 山本利夫

